

2011年 新たな年に向けて

年が明け、新しい1年がスタートしました。2011年の目標は立てられたでしょうか？今年も皆さんも2年次生となり高校3年間において成長著しい1年となるはずですが、学習面では中学校の延長ではなく、真の高校生としての力をつけていかねばなりません。これはつまり次のステップに向けた準備を意味します。伊丹北高校の「産業社会と人間」では人生80年という長いスパンで見て、自分の生きていく方向性を考え、どこへ向かって走り始めるかを見定めました。まだはっきりとした結論に至っていない人もいるかもしれませんが、2年次ではその考えをまとめるだけでなく、実際にスタートを切る力を蓄えなければならないのです。陸上競技で言えば「位置について！」で遥かなゴールを見ながらスタート位置に立つのが1年次とすれば、「よーい！」の合図でスタートダッシュにこめる力を充填するのが2年次なのです。

さて、この1週間で11期生は「総合学科発表会」に向けて動き始めました。「舞台班」「展示班」「冊子班」に分かれ、それぞれが総合学科1年間の集大成である「総合学科発表会」の準備に取り掛かり始めているのです。それぞれの班の活動の様子は冊子班新聞係の人達が壁新聞にして報告してくれます。休み時間などにそれを見て、色んな人達がそれぞれの仕事に携わり準備をしている様子を感じ取ってください。一人一人がその役割を果たさなければ発表会を成功に終わらせることは出来ません。その気持ちを忘れないで11期生みんなでは是非とも素晴らしい発表会を創り上げていきましょう。

百人一首大会

今年最初の学年行事となる「百人一首大会」が1月20日、27日で実施されます。冬休みに覚えた成果を発揮しましょう！

20日は「予選」として各クラスで獲得上位6名が選ばれます。(これを北高では六歌仙と呼んでいます。その由来は国語の先生に聞いてみよう！)そして27日には体育館で「本戦」が開かれます。個人表彰だけでなく、クラス対抗戦としての表彰もありますから頑張りましょう！

大学入試センター試験

去る1月15、16日で大学入試センター試験が実施されました。本校の3年次(9期)の先輩方も極寒の中たくさん受験し、これから自己採点、そして国公立大学の2次試験や私学のセンター利用に出願することになります。11期生のみんなも2年後に挑むことになります。センター試験は基本的な問題からの出題が主で、1年次の内容も多く出題されます。諸先輩方に続けるよう、今から努力を始めましょう！

冬休みが終わり、静かだった教室に賑やかさが戻ってきた。そうして今年も1月17日がやってきた。

—16年前。夜明け前の静寂は一瞬の内に不安と絶望に変わった。「関西に大きな地震はこない」などという根拠のない風評はもろくも崩れ去った。当時、教職員住宅の4階に住んでいた私は、割れて散乱した食器で足を切らぬよう、真っ暗な部屋の中を1歳になる娘の部屋に移動するのがやっとだった。倒れてきた家具が壁に穴をあけ、隣人の方の手を借りなければそれを立て直すことすらできなかった。「ライフライン」という言葉が毎日のようにメディアに流れていたが、電気の復旧は比較的早かったが、水道やガスの復旧には時間がかかった。水をもらうために給水車が回ってくる近所の小学校へポリタンクを持って行き、長い列に並んだりもした。

当時、伊丹北高校で3年の担任をしていた私は、尼崎から自転車で学校まで通った。道すがら、にわかには信じられないような光景を目の当たりにしながら学校に向かった。学校に着くと職員室は物が散乱し、図書館は本棚が倒れてそこら中に本が散らかっていた。D棟にいたっては校舎そのものが崩れてきていた。今にして思えば現実と思えないような有様だったが、JR中山寺付近で「震度7」だったと後に聞いた。3年はセンター試験直後だったが授業どころではなく、それ以前に生徒の安否確認に奔走した。幸い命に別状のある生徒はいなかったが、家屋が被害にあった生徒は多数いた。

テレビからは倒壊した阪急伊丹駅、横倒しになった阪神高速道路やそこからはみ出して今にも落ちそうになっているバス、そしてあちこちで同時起きている火災—そんな映像がいつまでも流れていた。

人間というのは「忘れる」ということができるから生きていけるのだと聞いたことがある。痛みや苦しみも時とともに忘れていくから生きていけるのだと。確かにそうかもしれない。しかしそれは時として、とても哀しいことでもある。心に深い傷を負った人は忘れることすら出来ず、「その時」から時計が止まってしまう。痛みや悲しみは時とともに和らいでいくのかもしれない。しかし決して消えることのない記憶もある。だからこそ私達は忘れまいとする取組みを大切にしなければならぬのだ。

先日、皆さんがメッセージを書いたろうそくは、1月16日夕方の5時46分から地震が起こった1月17日午前5時46分まで昆陽池公園にて灯された。震災で犠牲になった6434人の方の魂を思いながら。私達はこの地震を通して、かけがえのない多くのものを失い、大きな傷を負い立ち直れないのではないかとさえ思った。しかしこの地に再び花は咲き、笑い声は戻ってきた。同時に私達は大切なこともそこから学びとってきたのだ。みんなが「がんばろう」と声をかけあったあの時を、お互いに支えあって何とか立ち上がろうとしていたあの時を、忘れてはならない。そこから学んだことを忘れてはならない。

1月17日、16年前皆さんが生まれたその年の出来事。皆さんにはそれを知り、後世に可能な限り伝えていってほしいと願う。決して風化させることなく。